

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ 国語A（知識）の平均正答率は全国平均よりやや高く、宇都宮市平均よりやや低い。話すこと・聞くことと、読むことの平均正答率は全国・宇都宮市より高い。
- ・ 国語B（活用）の平均正答率は全国平均・宇都宮市平均より高い。特に読む能力は全国・宇都宮市の平均正答率より高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	91.1	88.8	86.8
	書くこと	3	62.0	68.1	64.6
	読むこと	10	77.7	77.1	75.7
	言語事項	17	75.8	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	91.1	88.8	86.8
	書く能力	3	62.0	68.1	64.6
	読む能力	10	77.7	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	75.8	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	79.1	77.9	76.0
	短答式	14	76.0	78.4	78.4
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	74.4	74.5	72.5
	読むこと	11	77.7	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	72.2	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	74.4	74.5	72.5
	読む能力	11	77.1	76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	72.8	72.3	70.2
	短答式	3	85.8	83.9	82.0
	記述式	5	74.4	74.5	72.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は91.1%で他の領域と比較して高く、全国平均より4.3ポイント、宇都宮市平均より2.3ポイント高い。特に効果的なスピーチをするために話し方の工夫をする設問の正答率は全国平均より9.4ポイント、宇都宮市平均より6.7ポイント高い。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は62.0%で他の領域と比較すると低い。特に主語に対応させて述語を適切に書く設問の平均正答率は49.6%で、全国平均と同様に低い。この領域で最も低い設問である。そのため文章を書く際に、主語と述語を適切に対応させて書くことに課題がある。
- B 領域の平均正答率は74.4%で全国平均よりも高い。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は77.7%で全国平均より2.0ポイント、宇都宮市平均より0.6ポイント高い。特に目次を読んで必要な情報がどこにあるかを見当を付ける設問の平均正答率は88.7%で、全国平均より7.5ポイント高い。

【言語事項】

- A 領域の平均正答率は75.8%で全国平均程度であるが、宇都宮市平均よりも0.9ポイント低い。また漢字の書きは無解答率が10%を超え、正解率の差がはっきりしている。
- A 適切な接続詞を選択する設問の正答率はこの領域で最も高く93.0%である。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 「国語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は、86%を超える。また「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した生徒の割合も、80%を超え、意識の高さが感じられる。
- 「読書が好き」と回答した生徒の割合が74%を超え、読書への意識の高さが感じられる。
- 「国語の勉強は好き」と回答した生徒の割合が40%で、全国・宇都宮市平均よりも低くなっている。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・日常において共通のテーマを設定し、その内容について話し合う機会を数多く設定するようにする。

【書くこと】

- ・文章を書く際には常に主語に対して述語が適切であるかどうかを意識して記述させ、推敲の場面において確認するよう指導する。

【読むこと】

- ・教材文はもとよりさまざまな文章を読む機会を数多く設け、言葉のつながりや意味の上から読めるように指導する。

【言語事項】

- ・学習した漢字や熟語を、文脈の中で適切に読み書きできるようにするとともに、部首に着目したり、同じ漢字を用いた他の語句と関連させたりするなど、漢字についての理解を図っていく。

2 数学

全体的な傾向

- ・ 数学A（知識）の平均正答率は、宇都宮市の平均より高く、正答数の分布状況は、30 問～32 問（正答率約 91～97%）の割合が高い。
- ・ 数学B（活用）の平均正答率は、宇都宮市の平均よりほとんどの区分で高く、正答数の分布状況は、0 問～6 問（正答率約 0～40%）の割合は、約 0～5%の間を推移している。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率（%）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	70.6	67.7	67.3
	図形	11	70.0	66.7	64.6
	数量関係	11	58.0	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	66.1	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	66.3	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	65.2	62.3	60.5
	短答式	13	67.8	66.7	66.1
	記述式	0			

【数学B】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率（%）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	3	66.7	63.0	61.4
	図形	6	58.1	59.3	57.5
	数量関係	6	57.7	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	55.9	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	68.3	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	87.8	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	65.8	63.3	61.6
	短答式	4	71.3	71.1	70.3
	記述式	5	43.0	41.7	40.6

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と式】

- A 領域の平均正答率は 70.6%で、他の領域と比較して高く、宇都宮市平均より 2.9 ポイント、全国平均より 3.3 ポイント高い。特に係数に分数を含む一元一次方程式の設問の正答率は全国平均より 6.8 ポイント高い。
- A 比の基本問題の正答率は 87.8%であるが、全国平均より 1.0 ポイント低く、比の問題の確実な定着に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 66.7%で、他の領域と比較して高く、宇都宮市より 3.7 ポイント、全国平均より 5.3 ポイント高い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は 70.0%で、数と式同様、数量関係と比較して高く、宇都宮市平均より 3.3 ポイント、全国平均より 5.4 ポイント高い。
- A 三角形の内角の和が 180° であることの証明について正しいものを選ぶ設問の正答率は 23.5%とたいへん低く、全国平均より 5.4 ポイント低い。証明の意義の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 58.1%で、数と式より低いが、全国平均より 0.6 ポイント高い。
- B 2直線が平行になることを三角形の合同条件を利用して証明する問題の正答率が 38.3%とたいへん低く、全国平均より 2.7 ポイント低い。証明問題はかなり強化してきたつもりだが、課題を残している。

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は 58.0%で他の領域と比較して低いが、宇都宮市平均より 0.3 ポイント、全国平均より 1.8 ポイント高い。
- A 二元一次方程式とグラフの関係の理解に課題がある。
- A 2つのサイコロを投げるときの事象の起こる確率の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 57.7%で他の領域と比較して低いが、宇都宮市平均より、3.0 ポイント、全国平均より 3.6 ポイント高い。
- B 与えられた情報を分類整理することに課題がある。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率が 43.0%で、全国および宇都宮市の状況と同様、選択式・短答式に比べて 20 ポイント以上低く、自分の考えを説明することに課題がある。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 「数学の勉強は好きです」と回答している生徒の割合は、全国平均より 2.3 ポイント高い。
- 「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答している生徒の割合は、全国平均より約 3 ポイント高い。
- 「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて 6 ポイント低い。積極的に学習していこうとする態度を育てる努力をしたい。

指導改善のポイント

【数と式】

- ・ 基本的な計算の定着を図るために、これまで同様、よく見られるつまずきの解消を目指した指導の徹底を図る。

【図形】

- ・ 証明問題では積極的に証明を書かせて添削するなどＴＴ活用による丁寧な指導をしてきたが、思うような結果が出なかったものがある。証明の意義を理解する活動の一層の充実を図る。

【数量関係】

- ・ 二元一次方程式の解の集合が直線になることが理解できるようにグラフを書く際は、小数などを座標とする点まで扱ったり、式の変形により一次関数として捉えさせたりする活動の充実を図る。

【その他】

- ・ 数学的な思考力・判断力・表現力を一層高めるために、ＴＴ活用による教師の対応の充実と、生徒が説明したり、互いに伝え合ったりする活動の充実を図る。
- ・ より分かりやすい授業の実現に向けて、補助教具の開発や活用、パソコンの持つ機能の効果的活用を図る。

3 生徒質問紙調査

＜＜傾向＞＞

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」に対して「当てはまる どちらかといえば、当てはまる」が 93.1%で全国と比べわずかに 1.2 ポイント高いだけだが、質問全体から見て高いパーセントである。

○「将来の夢や目標を持っていますか」に対して「当てはまる どちらかといえば、当てはまる」が 78.3%で全国と比べて 7.3 ポイント高い。

○「携帯電話で通話やメールをしていますか」に対して「ほぼ毎日している 時々している」が 66.1%で全国と比べて 11.7 ポイント高い。また、携帯電話の所有率は 76.5%で全国と比べて 16.7%高い。

●「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対し「1時間以上」が 54.7%で全国と比べて 10.5 ポイント低い。

●「家で学校の宿題をしていますか」に対して「している どちらかといえば、している」が 72.2%で全国と比べて 10.7 ポイント低い。

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか」に対して「週に1回以上行く」が 46.1%で全国と比べて 38.2 ポイント高い。

○「読書は好きですか」に対して「当てはまる どちらかといえば、当てはまる」が 74.8%で全国に対して 7.4 ポイント高い。

●「家の人と学校での出来事について話をしていますか」に対して「している どちらかといえば、している」が 50.4%で全国と比べて 9.4 ポイント低い。

○「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」に対して「そう思う」が 80.9%で全国と比べて 5.2 ポイント高い。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して「当てはまる どちらかといえば、当てはまる」が 21.8%で全国と比べて 16.2%低い。